平成２９年度第１回北杜市行政改革推進委員会会議録

１　開催日時　　平成２９年７月４日（火）　午前９時３０分から

２　開催場所　　北杜市役所北館３階　大会議室

３　出席委員　　小川昭二、村田俊也、酒井信、舩木良、松平純次、北原兵庫、
佐々木ひとみ、粟澤雅子、清水京子

４　欠席委員　　藤原真史

５　出席本部員　渡辺市長、菊原副市長、堀内教育長、高橋総務部長、篠原市民部長、織田福祉部長、小松生活環境部長、丸茂産業観光部長、赤羽建設部長、中田会計管理者、井出教育部長、土屋議会事務局長、岩波監査委員事務局長、小尾明野総合支所長、八巻須玉総合支所長、清水高根総合支所長、中澤長坂総合支所長、上村大泉総合支所長、仲嶋小淵沢総合支所長、宮川白州総合支所長、有泉武川総合支所長、石井総務部次長、清水政策秘書課長、植村財政課長

６　欠席本部員　手塚農業委員会事務局長

７　事務局　　濱井企画部長
中山企画課長
行革担当　跡部リーダー、原、向井

８　会議録署名委員　　村田委員、酒井委員

９　公開・非公開の別　公　開

１０　傍聴人　　２人

１．開　会

２．委嘱状の交付

３．市長あいさつ

４．委員紹介

５．職員紹介

６．会長・職務代理者の選任
　会長に小川 昭二委員、職務代理者に舩木 良委員が選出された。

７．会長・職務代理者のあいさつ

８．会議録署名委員の選出
　会議録署名委員：村田 俊也委員、酒井 信委員を指名

９．議　事（議長　小川会長）
（１）北杜市行財政改革大綱（第４次・第３次）について説明をする。
　質疑応答
　議　長　：事務局から説明いただきましたが、資料が厚く、非常に内容の濃いものになりますので、私が関わった範囲内で整理したいと思う。第３次大綱の実施期間は、平成２６～２８年度となっているため、今年３月で終了している。実施期間終了後の結果を知りたいところですが、先ほどの説明のとおり、現在、市では結果の点検を行っている最中であるとのことだったため、我々には８月開催予定の委員会で示してくださるということである。我々は、次回委員会において、結果を確認する中で意見や助言をすることになるかと思う。また、渡辺市長が新しく策定したものが第４次大綱になる。アクションプランが実施され始めたばかりであるため、市としての実績がまだ挙がっていないと思う。第４次についても、今後進捗状況を示していただけると思う。この委員会は新たな行革大綱を策定する際に、市長の諮問に応じて答申をするという使命があるが、新たな大綱がスタートしたばかりであるため、今年度においてはアクションプランの進捗管理や市が進める行革に対する助言を行うことになる。現段階では個別に意見を言える状況ではない。新体制後の初めての委員会であるため、総体的な質問等があれば伺う。

質疑なし

議　長　：質問等がないようなので、今後の委員会において審議を深めていきたいと思う。

（２）平成２９年度事務事業外部評価について（平成２８年度実施事業）について説明をする。

質疑応答

議　長　：今後、ここにいる委員がどのようなことを行うのか、また、スケジュールについて再度説明をお願いしたい。

事務局　：今後の予定として、７月に事務事業内部評価を行う。その結果をとりまとめた上で、事前に外部評価の対象事業の資料等を送付させていただく。その際に、２９１事業の中から、各部局で抽出した数事業のリスト等を送付する中で、「このような事業を評価したほうがよいのではないか」という事業を予め確認していただいた上で、８月下旬に開催予定の委員会内で対象事業の４事業を選定・決定を行っていただく。その後、１０月２２日の当日に御協力いただきたい。

議　長　：１０月２２日（日）に実施予定であり、我々委員が評価を行うことになるため、予定をお願いする。

（３）公共施設等総合管理計画について説明をする。

質疑応答

委　員　：今年５月に総合管理計画について、ホームページ上に公開されている情報をもとに、県内の状況について、レポートをまとめた。北杜市が策定した計画が県内市町村と比較してどうなのかという点について意見を言わせていただく。計画としては、北杜市は素晴らしいものを策定している。総合管理計画は全ての市町村で策定しているが、基本方針まで策定したのは、県内ではほとんどない。全ての施設においてシミュレーションを行っているというケースはまずないことから、これは素晴らしいと思う。次に、削減する目標について、目標値を設定した自治体は２７自治体中１９自治体である。最も削減率が大きい自治体は甲州市の３２．６％、次に大月市の３２％、甲府市が３１％であり、北杜市はそれに次ぐ削減率になる。また、削減率を設定していない自治体は山梨市、昭和町、忍野村、小菅村、丹波山村であるが、昭和町及び忍野村は財政が豊かであるため、公共施設の再編を行わなくてもよい状況である。山中湖村では年間更新費用が将来投資見込額を下回っている状況である。また、公共施設及びインフラを合わせた市町村もあり、昭和町及び忍野村では将来投資見込額を下回るという状況である。ただし、これは非常にレアなケースであり、ほとんどの市町村で削減しなければならない。そうした中、合併した自治体と

合併していない自治体は、くっきりと数字が分かれている。例えば、削減率の数字を見ても、合併を経験した１２自治体は２０～３１％となり、単純平均は２４．７％となる。一方、合併していない自治体は１５．８％となる。合併すると、どうしても重複する施設が存在するため、それを絞っていく作業はとても大変だと思う。しかし、ここまでしっかりと計画を策定したところはないため、今後はすぐに着手することが必要だと思う。そうした中、質問させていただきたいが、１つ目はこれだけ大幅な縮減を行うことに対し、市民の方にどう理解していただくか考えをお聞かせ願いたい。２つ目として、これだけの縮減を進めていくにあたり、人口減少が見込まれ、集落の統合に手をつけなければならないと考えるが、考えをお聞かせ願いたい。

事務局　：１つ目の市民への理解については、市民への理解というよりは、延べ床面積を３０％削減したとしても維持管理費が直近５か年と比較して４．４億円多くかかるという事実をまずしっかりと市民に説明し、一緒になって考えていただこうという思いでいる。２０年後、３０年後の状況はこうなるという情報を共有する中で、一緒に考えていきたい。いずれにしても、厳しい宿題であり、長い道のりになるだろうという思いである。２つ目の集落については、今ここでのコメントは差し控えさせていただきたい。国においても小さな拠点、集落の機能に着目して取り組んでいる事例もある。しかし、本市の特徴として、谷ごと、山ごとの文化があることから、２０年後、３０年後の姿を見定めていくことがまず肝要であり、その結果、集落がどうなるかということになるかと思う。

委　員　：説明を聞き、マイナスばかりという印象を受けた。私共の企業からすれば、この先１年２年で売り上げを伸ばそうなどという考えを持ち、企業の継続などを行っている。行政の収入は税金であり、人口が減るとおのずと収入も減ってしまう。あと２０年、３０年経てば、なくなってしまうような話ではいけないのではないかと感じた。２０年、３０年ではなく、５年、１０年の人口をどのように増やしていこうかということをなぜ考えないのかと思う。北杜市は移住№１と言っている。そうであれば、№１になる施策、市の収入が増えるようなことを考えていかなければ、非常に無理なのではないかと思う。企業の経営からすれば、マイナスをどこで着地するかということでは、発展的な考えではないという印象を持った。長年、北杜市に住んでいるが、これからもっと北杜市がよくなってもらいたいと思っている。財政健全化だけではないと思う。また、人口減少で従業員の求人が困難な状況である。アルバイトの時給は上がっている。しかし、時給がとんでもなく上がると、結果的に商品の値段が高くなることから、ある程度コントロールしなければならない。６５歳まで働けるように努力しているが、若い発想、若い労働力も必要だと思うため、１つのアイ

デアとして、北杜市の企業に北杜市民が勤務すれば所得税を軽減するというようなことを考えていただければと思う。韮崎市や甲斐市の方が勤務しているが、北杜市に住むメリットがあれば、北杜市に住みたいと思うようになるかもしれない。行政のみならず、地元企業も人口を増やし、収入を増やす方法を同時並行で考えていただきたい。公共施設等の無駄を省きながら、一方で収入を増やすような方法も考えていただきたいと感じた。

議　長　：参考にしていただきたい。

（４）補助金の適正化について説明をする。

質疑応答　なし

（５）今後の日程について説明をする。

質疑応答　なし

（６）その他

なし

１０　閉会